

温泉旅館のたたずまいを随所に再現 静寂に包まれた癒やしの住まい

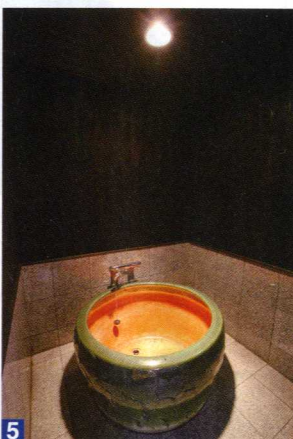


経年とともに深い味わいを醸し出す和風住宅。落ち着いた雰囲気、気持ちが安らぐと思う人も多いだろう。忙しい毎日をしばし忘れさせてくれる、そんな家に住んでみたいものだ。
軒先を長くした外観はどっしりとした安定感がある

おすすめの旅館を紹介したテレビ番組を何気なく観ていたKさん夫婦。岐阜県にある温泉旅館が2人の目に止まった。純和風の落ち着いた雰囲気でもとも風情があり、「こんな家に住んでみたい」と声をそろえたという。

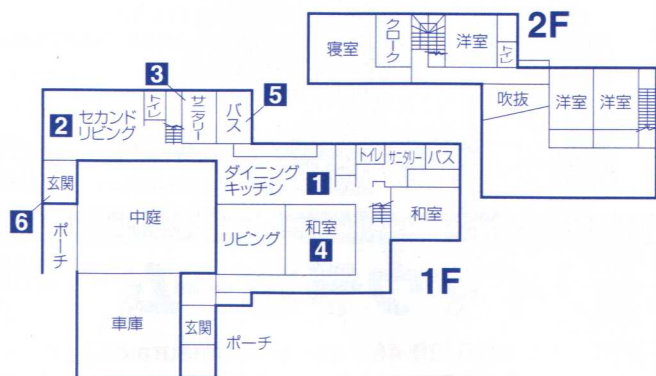
さっそくその旅館を訪ねてみることにした。実物はテレビで観るよりも美しく、とても静かな空間で思いはさらに強くなった。温泉旅館の設えを反映させたKさん夫婦の本格的な家づくりはここから始まった。黒に着色されたスギの床板、わらを練り込みコテムラを施したじゅうらく壁、和紙を使った照明。K邸には古い日本家屋の香りが家全体に漂う。「京都の町屋も意識しました。住めば住むほど味が出る家にしたかったです」とご主人。エアコンの室内機も黒の木目調のものを選び、細部に至るまで古民家の雰囲気を壊さないよう配慮した。岐阜の温泉旅館を参考に採り入れたものは玄関ホールの丸窓や

リビングのハの字型の入口、ドアの取っ手、バスタブなどさまざま。中でも信楽焼の陶製バスタブは特注品で製作に6カ月もかかったこだわりの一品だ。「保温効果が高く、冬でもお湯が冷めにくいようです。お風呂は私の癒やしの時間になっています」と奥さんはお気に入りの様子。すぐ近くに国道が走っているが、気密性が高いため車の音は聞こえずとても静か。庭先から小鳥のさえずりがわずかに聞こえてくる程度だ。「ここにいと時間が止まっているように感じる」ことがあります。この静けさも岐阜の温泉旅館にそっくりです」と2人は満足そうな笑顔を浮かべた。



5 信楽焼の陶製バスタブが目を引くバスルーム。ヒノキと御影石で囲まれた何ともしえいたく空間だ

各部屋に自然光と風が入るよう工夫。Kさん夫婦の居室と同居している母と弟の居室を左右に分け、中央にあるLDKに家族が集まるよう設計されている。



1 古民家の雰囲気を表現したダイニングキッチン。V字の吹き抜けは住宅雑誌に掲載された施工例を参考にした



2 約10畳のセカンドリビング。ご主人は夕食後にDVDを楽しむのが日課だ
取材協力:正栄産業 富山市下新北町54-1 TEL.076-439-0644



3 陶器でできた赤いボウルがかわいらしい洗面カウンター



4 リビングに隣接している6畳の座敷。マス目の大きい障子は部屋全体をすっきりとみせる効果がある



6 岐阜の温泉旅館にあった部屋の入口を再現。旅に訪れた気分になさしてくれる